

Title	著訳者紹介
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.21, 2001.9 : 3-7
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4151
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

大木 英夫 おおき・ひでお

1928年生まれ。1956年東京神学大学大学院卒。1960年ユニオン神学大学（ニューヨーク）ドクターコース卒。神学博士。組織神学・社会倫理学専攻。元東京神学大学学長。現在、学校法人聖学院理事長。聖学院大学総合研究所長。

〔著書〕『ピューリタニズムの倫理思想』、『ピューリタン——近代化の精神構造』、『終末論的考察』、『現代人のユダヤ人化——現代文明論集』、『キリスト入門』、『歴史神学と社会倫理』、『偶然性と宗教』、『人類の知的遺産・バルト』、『日本の神学』（共著）、『新しい共同体の倫理学』、『主の祈り』、『日本は変わるか』（共著）、『宇魂和才の説』など。

田 中 浩 たなか・ひろし

1926年生まれ。東京文理科大学哲学科卒。東京教育大学、一橋大学教授、立命館大学客員教授を経て、現在、一橋大学名誉教授。法学博士。

〔著書〕『ホブズ研究序説——近代国家論の生誕』（御茶の水書房・1982年）、『長谷川如是閑研究序説——社会派ジャーナリストの誕生』（未来社・1989年）、『国家と個人——「市民革命から現代まで」』（岩波書店・1990年）、『カール・シュミット——魔性の政治学』（未来社・1992年）、『近代日本と自由主義——論吉・卯吉・羯南・如是閑』（岩波書店・1993年）、『近代政治思想史——思想と歴史のダイナミズム』（講談社学術文庫・1995年）、『戦後日本政治史』（講談社学術文庫・1996年）、『ホブズ』（研究社・1998年）、『日本リベラリズムの系譜——福沢論吉・長谷川如是閑・丸山真男』（朝日新聞社・2000年）、『20世紀という時代』（日本放送出版協会・2000年）。

〔訳書〕T・ホブズ『リヴァイアサン』（河出書房新社・水田洋と共訳・1966～9年）、C・シュミット『政治的なものの概念』（未来社・原田武雄と共訳・1970年）、E・ウィリアムズ『帝国主義と知識人』（岩波書店・1979年）、J・ミルトン『教会統治の理由』（未来社・新井明と共訳・1985年）、R・タック『トマス・ホブズ』（未来社・重森臣広と共訳・1995年）、『C・ピアソン『曲がり角にきた福祉国家』（未来社・神谷直樹と共訳編・1996年）。

川原 彰 かわはら・あきら

1958年生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒。同大学院法学研究科博士課程修了。法学博士（慶應義塾大学）。比較政治学・現代政治理論専攻。立教大学助手、杏林大学専任講師・助教、中央大学助教授を経て、現在、中央大学法学部教授。

〔著書〕『東中欧の民主化の構造——1989年革命と比較政治研究の新展開』（有信堂・1993年）、『ポスト共産主義の政治学』（編・三嶺書房・1993年）、『比較政治学の構想と方法』（三嶺書房・1997年）、『グローバル・デモクラシーの政治世界——変貌する民主主義のかたち』（共著・有信堂・1997年）、『地域研究と現代の国家』（共著・慶應義塾大学出版会・1998年）、『現代政治学の透視図』（共著・世界書院・1999年）、『講座政治学Ⅰ・政治理論』（共著・三嶺書房・1999年）など。

相澤 一 あいざわ・はじめ

1967年生まれ。国際基督教大学教養学部卒。東京神学大学大学院修士課程修了。ニューヨーク・ユニオン神学校S. T. M. コース修了。関東学院中学・高等学校聖書科教諭を経て、現在、聖学院大学特任講師。

〔論文〕「パウロ・ティリッヒの『宗教史の神学』——その諸相と変遷」（東京神学大学神学会『神学』56号・1994年）、「ティリッヒ神学における人格神の概念」（組織神学研究編『パウロ・ティリッヒ研究』（聖学院大学出版会・1999年）

〔訳書〕パウロ・ティリッヒ『宗教の未来』（共訳・聖学院大学出版会・1999年）

大澤 麦 おおさわ・むぎ

1963年生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒。明治学院大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了。法学博士。現在、聖学院大学総合研究所専任講師。

〔著書〕『自然権としてのプロパティ——イングランド革命における急進主義政治思想の展開』（成文堂・1995年）、『イギリス・デモクラシーの擁護者A・D・リンゼイ——その人と思想』（共著・聖学院大学出版会・1998年）。

〔訳書〕『デモクラシーにおける討論の生誕——ピューリタン革命におけるパトニー討論』（共訳・聖学院大学出版会・1999年）。

川添 美央子 かわぞえ・みおこ

1970年生まれ。聖学院大学非常勤講師。政治思想史専攻。

〔論文〕「自由意志論争におけるホッブズの二つの視座」『法学政治学論及』第40号(1999年春季号)、「政治思想における自由意志の問題」『法学政治学論及』第45号(2000年夏季号)、「ホッブズの唯名論に関する予備的考察」『法学研究』(慶應義塾大学)74巻第10号(2001年)。

野呂 有子 のろ・ゆうこ

1951年生まれ。1975年東京教育大学(現・筑波大学)文学部文学科英語学英文学専攻卒。1977年同大学院文学研究科修士課程修了。東京成徳短期大学を経て、現在、東京成徳大学人文学部教授。

〔主要著訳書・論文〕『C・S・ルイス〈ナルニア国年代記〉読本』(共著・国研出版)、『イギリス革命におけるミルトンとバニヤン』(共著・御茶の水書房)、『ミルトンとその光芒』(共著・金星堂)、『神、男、そして女——ミルトンの「失樂園」を読む』(共著・英宝社)、『十七世紀と英国文化』(共著・金星堂)、『C・S・ルイス文学案内事典』(共訳・彩流社)、『古代悪魔学——サタンと闘争神話』(監訳・法政大学)、『Milton's Meta-morphosis from a Ciceronian Orator to the Pauline Prophet in *Pro Populo Anglicano Defensio Secunda*』(『聖学院大学総合研究所紀要』第7号)、『『イングランド国民のための第一弁護論』における〈自由〉・〈法〉・〈議会〉再考』(『聖学院大学総合研究所紀要』第8号)、『オックスフォード版・ジョン・ロック『パウロ書簡注解』編者序文』(共訳・『聖学院大学総合研究所紀要』第10号)、『ジョン・ロック著『パウロ書簡注解』序文』(共訳・『聖学院大学総合研究所紀要』第13号)、『ジョン・ロック著『ガラテヤ人への手紙注解』』(共訳・『聖学院大学総合研究所紀要』第14号)、『イングランド国民のための第一弁護論・第二弁護論』(新井明氏との共訳・聖学院大学出版会より出版予定)ほか。

松谷 好明 まつたに・よしあき

1944年福島県生まれ。1967年一橋大学社会学部卒。1970年神戸改革派神学校3年中退。1972～74年英国ブリストル大学大学院ならびに英国教会トリニティ神学校に留学。日本キリスト教会福島伝道所牧師、1992～96年ロンドンで日本語教会牧師およびシティ・テンプル教会協力牧師。1996年帰国後、福岡築紫野教会牧師を経て、現在、日本キリスト教会西経堂伝道所牧師。聖学院大学総合研究所客員教授。日本アングロアメリカ研究センター・ピューリタニズム研究室長。

〔著書〕『ウェストミンスター神学者会議の成立』、『ウェストミンスター神学者会議議事録(抄)』、『ウェストミンスター神学者会議——その構造化』(いずれも、一麦出版社)。

〔訳書〕『スコットランドにおける教会と国家』、『ウェストミンスター信仰告白と今日の教会』(いずれも、すぐ書房)。

クリストファー・ポールマン Christopher Pollmann

1959年ドイツ、ボン生まれ。ハンブルク大学にて、法律学を修得。1991年、モンペリエ第一大学にて博士号取得（公法学）。1993年、ストラスブール、ロベール・シューマン大学にて博士論文指導資格取得。現在、メッツ大学助教授。コーカサス地方、グルジア工科大学（トビリシ）客員教授。2001～2年、ハーバード・ロー・スクール、エミール・ノエル・フェロー。とりわけ法哲学と政治権力論に関心をもつ。現在は、特に人権の発展と欧州統合を通して、個人と集団のアイデンティティの法的構造や政治的機能について研究を進めている。近刊の論文には、次のようなものがある。

—“Individualisme, double mesure et pathos moral. Une critique des droits de l'homme illustrée par des propos d'écrivains et de philosophes”（個人主義、二重の尺度、道徳的パトス——文筆家・哲学者の考えにおいて描写された人権に対する批判的検討——）、関東学院大学にて開催された第4回日仏公法セミナー（2001年3月7日～12日）における報告。翻訳とともに、関東学院大学法学研究所紀要『ジュリスコンサルタス』11号、2002年掲載予定。

—“La fonction psychique du droit. L'imaginaire juridique entre individu et collectif”（法の心的機能。個人と集団間の法的イマジネールな世界）、Hugues Rabaultとの共作、Droit et société. Revue internationale de théorie du droit et de sociologie juridique, Librairie générale de droit et de jurisprudence: Paris, 2001年または2002年掲載予定。

大藤 紀子 おおふじ・のりこ

1986年、一橋大学大学院法学研究科修士課程修了。1991年、パリ第二大学大学院法学部博士課程にてD. E. A. 取得。1993年、一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得。法学修士。1997年より聖学院大学講師。2001年より聖学院大学助教授。

〔著書〕「現代立憲主義の下における人権条約の地位について——フランスの場合——」（共著・『主権と自由の現代的課題』勁草書房・1994年）、「EUの超国家的性質とフランスにおける欧州市民権の位置づけについて」（共著・『人権理論の新展開』敬文堂・1994年）、「1953, 54, 55年の年表及び解説」（共著・『日本国憲法史年表』勁草書房・1998年）、「ヨーロッパにおける「民主的社會」の要請」（共著・『憲法の歴史と比較』日本評論社・1998年）、「ヨーロッパにおける「地域」の位置づけについて」（共著・『二一世紀の立憲主義——現代憲法の歴史と課題——』勁草書房・2000年）ほか。

森田 美千代 もりた・みちよ

1946年生まれ。国際基督教大学大学院修士課程教育研究科修了(教育学修士)。ドルー大学神学部 Master of Theological Studies 修了(神学修士)。ドルー大学大学院博士課程アメリカの宗教と文化専攻修了(哲学博士)。現在、聖学院大学総合研究所助教授。

[論文] “Horace Bushnell on Women in Family, Church, and Nation in Nineteenth Century Christian America.” Ann Arbor: University Microfilms International, 1999. ほか。

中島 明子 なかじま・あきこ

2001年3月、聖学院大学大学院政治政策学研究科修了。

ディーン・W・サザデン Dean W. Sotherden

1960年生まれ。1982年オハイオ大学卒。テンプル大学にてM. Ed.取得。現在、聖学院大学総合研究所助手。

[論文] A Literature Review of Motivation and Second Language Acquisition, Unraveling the Mystery of Motivation in EFL Education, An Introduction to Some Important Writings Relevant to EFL and ESL Education, The Role Of Discourse Analysis In EFL Education, The Japanese Identity Crisis: Friend Or Foe Of English Language Teachers?, Economic Influences in Relation to the Language of the Amish, A Commentary On Contemporary American Society and the Amish, The Amish Commitment To Pacifism.

エバート・D・オズボーン Evert D. Osburn

Multomah School of the Bibleなどで学び、1988年、Oregon Western Seminaryで、Exegetical TheologyのM. A.を取得。同年、The Independent Fundamental Churches of Americaで按手を受け、日本キリスト教団西荒川教会に宣教師として赴任。現在、同教会牧師。1992年、聖学院大学総合研究所所員になり、現在、聖学院大学総合研究所助教授。聖学院英語教育プログラム主事。